



環境庁が「絶滅危惧種」に指定しているイヌワシ

水資源開発公団91年の調査

イヌワシは日本を代表するワシ・タカ類の一種だが、国内に約百三十つがいしか確認されておらず、第二のトキと言われる。環境省の日本版「レッドデータブック」でも絶滅危惧種（きぐしゅ）に指定されている。

公団によると、一九九一年から、ダム建設予定地付近で専門家による生物相調査をしている。

大垣市などの住民グループ「徳山ダム建設中止を求

徳山ダム上流で「イヌワシ目撃」

国の天然記念物のイヌワシが、建設途中の徳山ダム（岐阜県揖斐郡藤橋村）上流の冠山で目撲されていたことが、二千八日、分かった。ダム建設反対派の指摘を受け、水資源開発公団中部支社が、名古屋市で開かれた同ダム建設事業審議委員会で、初めて認めた。

イヌワシは日本を代表するワシ・タカ類の一種だが、国内に約百三十つがいしか確認されておらず、第二のトキと言われる。環境省の日本版「レッドデータブック」でも絶滅危惧種（きぐしゅ）に指定されており、同年十二月、冠山で一羽が飛んでいるのを目撲した。ダムの水をためる湛水（たんすい）域の上流約四キロの地点だった。

公団はこれまで、この事実を公表してこなかった。陸生生物の調査対象区域を湛水域から二キロ以内に限つており、見つけたのが対象区域外だったためと説明している。

湛水域から離れていても、「安心できない」と反発している。

イヌワシについては、関西電力は一月、岐阜県坂内村と滋賀県木之本町境の発電ダム予定地近くで営巣が確認されたとして、工事用道路をトンネルにするなどの対応策を示している。

反対派の指摘後に発表

非公開とする▽近く開く公聴会は東海三県在住者に限る、などの方針を決めた。

審議委員会委員長の館正知・岐阜大名誉教授は記者会見で、審議委員会を開催しながら部会だけを非公開とする理由について、「専門部会を開くと自由な発言がしにくい」と説明した。審議委員会では、委員から異論は出なかつた。

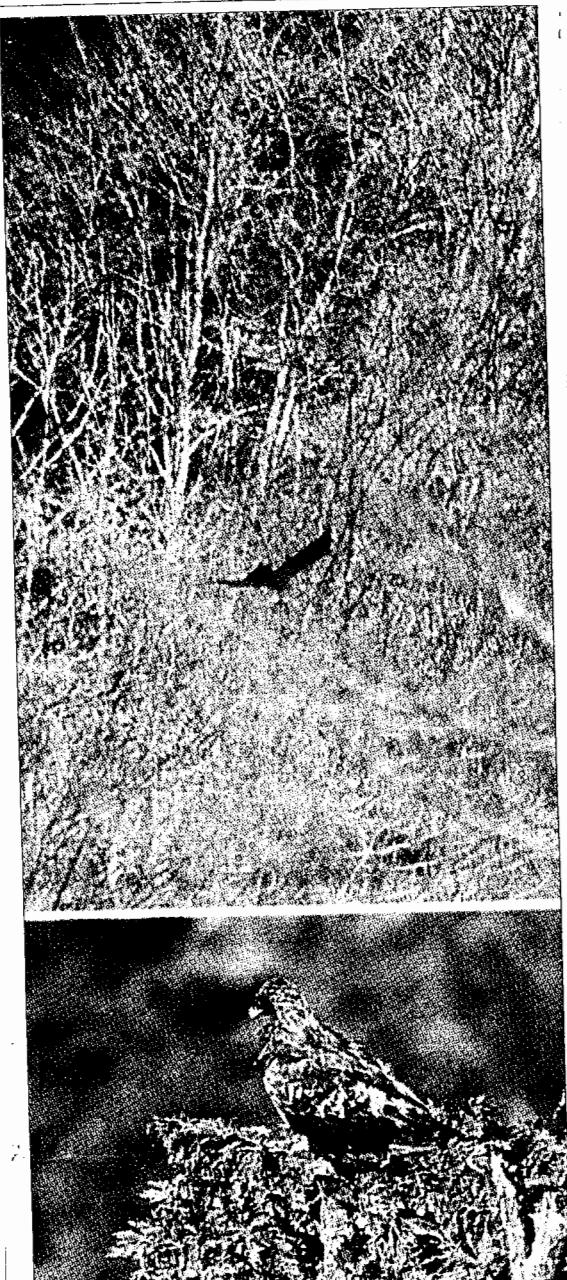
審議委員会はこの日、環境をテーマに、公団や建設省から説明を聞いた。今後の予定として、技術、環境両部会を発足させ、専門家による検討を行う。審議は

87年から15回

日本野鳥の会岐阜県支部

朝日
5/12

徳山ダム用地近く イヌワシの姿確認



96.5.12

建設省と水資源開発公団が岐阜県藤橋村に建設を進める徳山ダムの水没予定地やその周辺で、国の天然記念物イヌワシが一九八七年から現在まで十五回も確認されていたことが、日本野鳥の会岐阜県支部の調べでわかった。また、同会の愛知県支部の会員がイヌワシの撮影に成功、先月にもダム下流で撮った。八〇年代初めに公團や中部電力などがまとめた二つの調査報告書にはイヌワシの記述はなかった。岐阜県支部では、ダム開発で影響を受ける地域内に生息している可能性が高まつたとしている。

イヌワシは、環境庁がレッテルデータで絶滅危機種に指定している。公團はこれまで「九一年十二月に、ダム上流の冠山付近で目撲情報を聞いただけ」と、ところが、野鳥の会岐阜

今年4月21日、徳山ダム下流3キロ付近を飛ぶイヌワシが93年9月25日に確認された徳山ダム付近のイヌワシいずれも岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会愛知県支部会員等す

水資源開発公团中部支社の竹内宏副支社長は「イヌワシなど猛禽（もうきん）類の重要性が認識され始めたのは最近で、従来調査ではなかつた」。中部電力広報室は「当社のエリア内で見つかれば、再調査するかどうか検討する」と話している。

徳山ダム 上流にイヌワシ生息

3/30
続

水資源開発公团

5年間も公表せず

岐阜県藤橋村に水資源開発公团が二十八日に、名古屋一年末で、水をためる計画

公团が建設中の徳山ダム、尾市で開かれた同ダム建設工事から約四キロ上流の冠山付近で、國天然記念物で環境事業審議委員会で公表し（二、三五七頁）の頂上付近を飛んでいた。同公團かなどの市民による「徳山ダムさらに広げて繁殖地がある」といふのが飛んでいた。同公團による「イヌワシ依頼を受けた環境調査を公團中止を求めるが、かくかを調べるべきだ」といふのが確認され、同公團中止が確認されたのは一九九二年であるが、同公團によると、徳山ダム生物調査、イヌワシの情報を目にしたこと話している。

会が住民からの聞き取りで、調査のやり直しの要望調査で確認した。一方を同審議委員会に提出ししかし、同公團の調査対象区域から、約四キロ離れていたため、「工事の影響は考えられない」として、調査のやり直しを実現させたため、同公團が明らかに象区域は渦水域から、以降、調査のやり直しの要望を実現させた。

内でも、イヌワシは対象外の

求める会の上田武夫代表

96.3.30

県支部が四月中旬、主だった六人の会員に確認したところ、金員がダム周辺で目撃していた。

観察ノートなどをもとにまとめたところ、八七年以降の累計で、目撃地点は十五カ所。このうち、水没地域内は、八七年、八八年、九年の三回。最近は冠山付近で、九一年と九五年に二回ずつ。ダム下流3キロ付近を中心、八九年以降、七回目撃されている。下流4・5キロの地点には、中部電力が杉原ダムを計画して、ダム下流3キロ付近を中心に、八九年以降、七回目撃されている。下流4・5キロの地点には、中部電力が杉原ダムを計画している。

写真撮影したのは、野鳥の会愛知県支部のメンバー

ら。名古屋市北区の会員（四十）らが先月二十一日、ダム下流3キロ付近で撮った。三日にも、同所で、ダム方向に飛ぶつがいをみた。

5/19

06
05
19
19
19

クマタカが巣

伐採で消滅も

徳山ダム予定地で確認

日本野鳥の会支部



岐阜県藤橋村の徳山ダムの水没予定地で、環境庁が絶滅危惧種に指定している

クマタカが巣をつくっている

日本野鳥の会岐阜県支部が水没地域周辺で三ヵ所確認

したが、うち二ヵ所はダム工事で森林が丸ごと伐採され、消滅していた。同支部は、水資源開発公団がクマタカの生息を知りながら、十分な調査をせずに工事を進めた、と批判している。

クマタカは国内に一千羽

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

愛知県支部会員写す

年

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

たことが、十九日わかった。

ほどしかいないとされる。

先月、近くで撮影されたイ

ヌワシとともに、絶滅が心

配される代表的な野鳥だ。

同支部がこのほど、六人

の会員から観察ノートをも

とに報告してもらつたとこ

ろ、この九年間で、計十九

カ所で飛んでいるのが目撃

されていた。ダムサイト付

近から、水没地域一帯に広く分布しており、複数のつ

がいが生息していた可能性

がある。

巣は一九八七年から九〇

年にかけ、水没地域内での北

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す

岐阜県藤橋村で、日本野鳥の会岐阜県支部会員写す



丸裸に伐採されてしまった水没地域西部の林。クマタカの巣があったという=今月3日、岐阜県藤橋村で

創業100年

豊かな環境を創造する



五洋建設



Mr.PENTA
ワンダフル21世紀

た生物相調査で、クマタカがかつて生息していたと記述。九一年に再開した調査では、飛んでいるのを初めて確認したが、巣は確認していないとしている。目撃されたのは、水没地域周辺二ヶ所で決めた生物相調査の範囲内だったが、工事はそのまま継続し、特別な保

護対策もしていかつた。公団中部支社は「今後、イヌワシ、クマタカなどの猛禽（もうきん）類について詳しく調べる」と説明している。だが、日本野鳥の会の大塚之穂・岐阜県支部長は「工事を進めながら、どれだけ十分な調査ができるのだろうか」と話している。

公団は、八一年にまとめた。しかし、水没地域西部の巣は、この数年間に、森が伐採され、消滅した。

この巣を確認した名古屋市の会社員によると、も育てていたという。公団は、水没地域の森林はすべて伐採する方針。すでに九百三十㌶の森林のうち三割を伐採している。公団は、八一年にまとめた。

5/20

徳山ダム（岐阜県藤橋村）周辺で絶滅危惧（ぐくい）のイヌワシ、クマタカの生息が日本野鳥の会岐阜県支部などに指摘されている問題で、水資源開発公団中部支社は二十日、猛禽（きん）類の現地調査を同日から始めると発表した。今後、森林伐採の前に専門家を呼んで

でイヌワシなどの巣がないかどうか確認するとした。

公団は一九九一年以降の

生物相調査でクマタカ飛翔（しょこう）を確認しながら、対策を講じていなかつた。公団中部支社の竹村具美建設部次長は「巣があることも知らなかつた」と調査の不十分さを認めた。

水資源開発公団 イヌワシなど対象

徳山ダム（岐阜県藤橋村）周辺で絶滅危惧（ぐくい）のイヌワシ、クマタカの生息が日本野鳥の会岐阜県支部などに指摘されている問題で、水資源開発公団中部支社は二十日、猛禽（きん）類の現地調査を同日から始めると発表した。今後、森林伐採の前に専門家を呼んで

調査期間は二年間。コン

百二十平方キロメートルに拡大する。今まで調査対象外で、イヌワシ飛翔情報がありながらパンフレットなどを遅らせるとしている。

サルタンントに依頼し、約二十人が現地に入る。調査範囲も百平方キロメートルから二百二十平方キロメートルに拡大する。今まで調査対象外で、イヌワシ飛翔情報がありながらパンフレットなどを遅らせるとしている。

5/20 中日

猛きん類、初の調査

徳山ダム
予定地

冬期のぞき2年間

水資源開発公団は二十日、建設が進む徳山ダム（岐阜県藤橋村）予定地と

周辺地域で、同日午後から、猛禽（きん）類の生息調査を始めたことを明らかにした。貴重種が生息しているとの指摘が相次いでいるためで、猛きん類に絞った調査は初めて。

今回の調査区域は、従来の鳥類調査区域に、イヌワシ情報がある冠山も加えう。

同公団はこれまで猛きん類を含めた鳥類調査を行っており、クマタカやオオタカなど、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」での希少野生動物七種を確認。従来の鳥類調査は、水没地と工事関連区域内の山林など約百二十平方キロが対象。区域内に十五カ所の調査定点を設

け、飛来や営巣状況を観察する。積雪などで困難な冬を除き二年間行つ。

同公団はこれまで猛きん類を含めた鳥類調査を行つた。貴重種が生息しているとの指摘が相次いでいるためで、猛きん類に絞った調査は初めて。

福井県境）では国の天然記念物イヌワシの目撃情報も寄せられ「工事本格化に

徳山ダム（岐阜県藤橋村）周辺で、レッドデーターブックで絶滅危惧（きぐ）種に指定されたイヌワシとクマタカの生息が指摘されている問題で、ゴルデンウイーク中、日本野鳥の会愛知県支部会員の現地調査に同行した。実際に、伐採が迫る山の尾根を飛ぶ姿を見た。愛好家の間では以前から好観察地として知られていたこの地域で、これまでの公園や中部電力などの調査でわからなかつたのだろうか。「二十日、公園は猛禽（きん）類調査を急ぎよ始めたが、営巣地が見つかった場合にどうするか、対応策も決まっていない」。（社会部・伊藤智章）

伐採迫る尾根 イヌワシ見た

徳山ダム周辺は好観察地

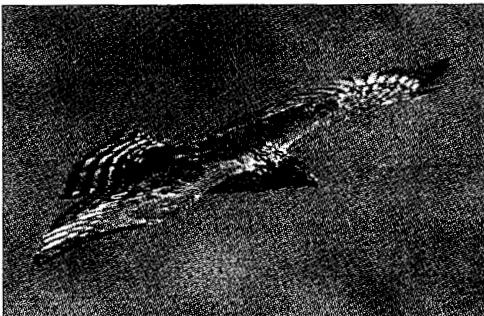
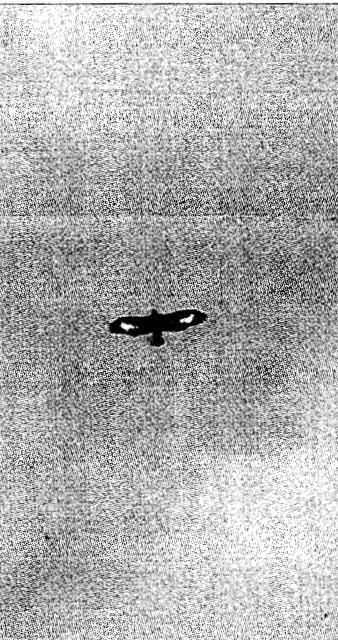
再調査 団巣あれば対応策は？

徳山ダム周辺の環境調査は、公園などの「生物相調査」（一九八一年）と、中部電力と電源開発の「環境影響調査」（八二年）がある。しかし、これは関係者が「不十分」と認める内容で、イヌワシの記述はない。

そこで長良川河口堰（せき）問題で環境対策に直面した公園中部支社は、九年から独自に調査を再開した。竹内宏副支社長は「徳山は反対運動もなかつたが、この時依頼したのが、将来問題になる前に調査をやっておこうと思った」と話す。

野鳥の会岐阜県支部の大塚之穂支部長は公園の姿勢に問題があるとみる。「調査は今まで三千五百万円をかける予定で、從来にない大掛かりだ。調査面積も百二十平方キロメートルと従来の二割増で、集水面積の半分近く。

調査は今まで三千五百万円をかける予定で、從来にない大掛かりだ。調査面積も百二十平方キロメートルと従来の二割増で、集水面積の半分近く。が、巣がみつかった場合の対応策は検討していない。水没予定地域で営巣の可能性もあるが、「その時は専門家に相談したい」としている。



朝日
5/21

野鳥の会現地調査に同行

①徳山ダムサイト下流五百㍍付近を飛ぶクマタカ＝93年4月、日本野鳥の会愛知県支部会員等す
②徳山ダム下流三千㍍付近を飛ぶイヌワシの若鳥。羽の一
部が白いのが、若鳥の特徴だ＝89年11月、日本野鳥の会
愛知県支部会員等す

現場は、ダム工事現場に向かう途中の山中。朝林道を四輪駆動車で登り、切り立ったがけを望む地点で三時間あまり。息をひそめたうつ伏せ。谷底から上昇気流が吹き上げて来る。その時同行した野鳥の会のメンバーが谷に向こうの尾根の上を飛ぶ。向かいの鳥を見つけた。本当に多い。翼を広げたま

ま、気流を受け止め、ゆうゆうと旋回している。ふくらんだ腹、両羽の先をV字形に持ち上げている。黒茶色の体だが、羽の裏側に、白っぽい部分。これがイヌワシの特徴だといふ。三分ほどぬぐり飛んだ後、尾根飛び越え、ダム方向に姿を消した。

「一人ではおのずと限界があった」とこの研究者はいう。例えは、通常、野鳥観察は早朝に行うが、イヌ

公園、イヌワシン確認

予徳山ダム初めに先月の調査で

水資源開発公団は、徳山ダム建設予定地(岐阜県藤橋村)で国の天然記念物イヌワシンが飛んでいるのを先月確認したことを、名古屋市で七日開いた同ダム建設事業審議委員会で報告した。公団が直接目撃したことを公式に認めるのは初めて。先月二十日にスタートさせた猛禽(もうきん)類調査でわかった、という。詳しい巣の調査など、ダム工事との関係を今後調べる「」いうが、ダム反対の市民グループからは「調査を始めてすぐわかるのなら、いったい今までの環境調査は何だったのか」と、改めて公団の姿勢を疑問視している。

イヌワシンはレッドデータブックで絶滅危惧(きぐ)種に指定されている貴重種で、同ダム予定地周辺はその好観察地として、愛好家の間では知られていた。しかし、公団や中部電力などが実施した、八〇年初頭のふたつの環境調査ではイヌワシンについての記述はゼロ。公団が九一年に再開した調査で聞き取り情報が調査対象区域外であっただけとしていた。日本野鳥の会岐阜県支部などが調査の必要性を指摘、五月末から公団は猛禽類調査に乗り出しました。直後だった。五月二十九日から五日間か

けとしている。

この日の審議委員会で

は、目撃情報や、調査の計画を報じたが、委員から

質問は出なかった。審議委員会は今年度中に結論を出すことをめどとしてきた

一方、市民グループ「徳山ダム建設中止を求める会」(上田武夫会長)は同日、建設省中部地方建設局に、最低三年かけ調査を徹底するよう、申し入れた。

が、イヌワシン調査は二年かかる見通し。結論の時期をどうするか、イヌワシンがダム周辺にいることがはつきりしてきただけに、その対策はどうするかが、今後の検討課題となる。この点について、会長の館正知岐阜大名誉教授は委員会後の会見で「今の時点では何とも言えない」と話している。

日本野鳥の会岐阜県支部の大塚之穂支部長は「猛禽類に絞った調査をすれば、すぐわかるのは当たり前のようだ。」と話している。工事と現地にいるイヌワシンとの関係を詳しくみていくことが必要だ」と話している。

一方、市民グループ「徳山ダム建設中止を求める会」(上田武夫会長)は同日、建設省中部地方建設局